

三重県病院協会会報

Mie Hospital Association (MHA)

No. 306 2025(令和7)年1月

新春特集

三重県病院協会理事会から
年頭のご挨拶

理事長
理事

副理事長
監事

わが町の病院

ペンリレー

フォト・ギャラリー

三重はふるさと 空中散歩

各種報告 令和6年度受賞お祝い

三重県病院協会

MHA



表紙の解説

題字

揮毫は鬼頭翔雲先生です。先生は日展会員で、今までに特選2回、入選35回、日展で書道部門の審査員に選ばれました。日展の全部門を通じ審査員とされたのは、松阪市ゆかりの人では日本画の宇田荻邨（てきそん）と先生だけだそうです。他に読売書法会常任理事・審査員、中部日本書道会名誉副会長などの要職を務められています。

先生は、明るく気さくなお人柄で、誰からも好かれ、私にとっては30年来お酒と人生の師匠です。今回会報誌の題字をお願い致しましたところ、快くお引き受けいただきました。題字には、「力強さ」と同時に先生のお人柄である「おおらかさ」が表れ、私たちの会報誌を飾るのにふさわしい素晴らしい書であります。

デザイン

表紙の中央に淡い赤、青、黄の三重県地図3枚が、少し重なるようにして並べてあります。三重ですから単純に3枚並べてみたのですが、それが思わぬ効果を生み出しました。

病院は、医師、コ・メディカル（看護師、技術職員）、事務職員の三者が協力して運営していくことが最も大切であります。三色の地図は、三重県全体の医師、コ・メディカル、事務職員の集団を示し、県内のすべての病院では、これから三者が力を合わせて円滑に運営していくことを意味します。今まさにスタートの時ですが、あたかも陸上競技のスタートのように、三者が手をつないでスタートアップしているように見えます。また別の見方をしますと、ちょうど多度の上げ馬のように、馬が三頭、天に向かって飛翔しようとしているようでもあり、これからの飛躍をめざす私たちの協会を象徴するものであります。

またこのデザインを利用して、協会のロゴマークも作成しました。

表紙の背景は水色ですが、これはこれまでの会報誌の青色を少し薄くして引き継いだものです。

（竹田 寛 記）

新春特集 年頭所感 (敬称略)

三重県病院協会理事会

ハイテック ハイタッチな医療の提供をめざして	理事長 (伊勢赤十字病院院長) 楠田 司	1
年頭所感	副理事長 (桜木記念病院理事長・院長) 志田幸雄	3
新年のご挨拶	副理事長 (県立総合医療センター理事長・院長) 新保秀人	4
年頭所感	理事 (ヨナハ丘の上病院名誉院長) 東口高志	6
年頭所感	理事 (市立四日市病院院長) 金城昌明	7
年頭のご挨拶	理事 (総合心療センターひなが院長) 森 厚	8
三本の矢	理事 (山中胃腸科病院院長) 淵田則次	9
年頭所感 ~巳年です~	理事 (鈴鹿中央総合病院院長) 北村哲也	10
年頭所感	理事 (鈴鹿回生病院院長) 荒木朋浩	11
年頭所感	理事 (熊野病院理事長・院長) 野寄 徹	11
年頭所感	理事 (白子ウィメンズホスピタル院長) 二井 栄	12
年頭所感	理事 (県立こころの医療センター院長) 森川将行	13
年頭のご挨拶~2024年を振り返って~	理事 (三重中央医療センター院長) 下村 誠	14
新年のご挨拶	理事 (済生会松阪総合病院院長) 清水敦哉	15
新年のご挨拶	理事 (松阪中央総合病院院長) 田端正己	16
年頭挨拶	理事 (伊勢ひかり病院院長) 堂本洋一	17
年頭所感	理事 (志摩市民病院) 江角悠太	18
2025年を迎えて	理事 (紀南病院院長) 加藤弘幸	19
年頭所感	監事 (吉田クリニック院長) 吉田光宏	20
令和7年の年頭所感	監事 (ヨナハ丘の上病院理事長・松阪市民病院顧問) 伊佐地秀司	21

305号 特集「竹田 寛先生を偲んで」より

故・竹田 寛 追悼特集への御礼	竹田 恭子 (故・竹田 寛 妻)	22
-----------------	------------------	----

わが町の病院	桑名市総合医療センター	院長	山田 典一	24
	紀南病院	院長	加藤 弘幸	29

ペンリレー

「うちの病院自慢」	四日市消化器病センター	地域連携室	32
-----------	-------------	-------	----

フォト・ギャラリー

三重はふるさと 空中散歩	松阪市民病院名誉院長	小倉 嘉文	33
--------------	------------	-------	----

報 告

三重県病院協会だより	35
三重県精神科病院会だより	36



新春特集 年頭所感

年頭所感

ハイテック ハイタッチな医療の提供をめざして

理事長 楠田 司 (伊勢赤十字病院院長)



明けましておめでとうございます。気持ちも新たに令和 7 年を迎えることとなりました。今年には 60 年に一度の「乙巳 (きのと・み)」の年であり、この干支は成長や発展を象徴するとされています。病院運営に苦慮した昨年から心機一転のスタートを切るにふさわしい年となりそうです。

さて、昨年末から実施されたマイナ保険証の導入等をはじめとする医療 DX は今後さらに進んでいくものと考えられます。一方、対人サービスが医療 DX で代替されることは無いという意見もあります。医療経済学者の二木立氏も後者の意見を持つ 1 人ですが、彼の著述の中で言及した「ハイテック ハイタッチ」という言葉を時おり思い出すことがあります。この言葉は、未来予測学者である Jon Naisbitt が著書『メガトレンド (1982)』の中で最初に用いたものですが、1999 年には『ハイテック ハイタッチ』と題する本も出版して近未来の社会潮流を予測しています。

「ハイテック ハイタッチ」とは、新技術 (ハイテック) が社会に導入される時にはいつでも、平衡を取り戻そうとする人間的反応 (ハイタッチ) があり、両者のバランスが取れた場合にテクノロジーは受け入れられるという考え方ですが、二木氏はこの言葉を医療の現状に照らし合わせ、ハイテック医療の進歩に伴うハイタッチの必要性を説いています。

ひるがえって我が国の今後を見通せば、日本は 2025 年問題、2040 年問題で形容されるように未曾有の超高齢、人口減少社会を迎えます。人口構造は大きく変容し、15 歳未満の年少人口や生産年齢人口は急激に減少し、2030 年には 644 万人、2040 年には 1100 万人の労働者の供給不足が発生すると試算されています。様々な分野が人手不足に陥るわけですが、とりわけ問題となるのは「サービス業」と「医療・福祉」です。「医療・福祉」については、現在でも介護分野の人材不足は深刻であり、地方では看護職を始めとする種々の医療職や事務職の確保が徐々に難しくなってきました。このままでは、現在のようなハイタッチな医療を将来にわたって提供することは困難となることが予想されます。このため、政府は高齢者や女性の社会参加を奨励するとともに、デジタルトランスフォーメーション (DX) といったデジタル技術による様々な変革を推進し、効率化や省力化を推し進めようとしています。その先にはビッグデータによる治療の最適化、AI 医療などの新技術開発、新薬や新しい医療機器開発、予防医療の普及といった様々な領域へテクノロジーの導入が進んでいくこととなります。こうした次世代の高度な医療技術が社会に受け入れられていくためには、その一方で医療者や患者・家族の不安を取り除いて心を豊かにしてくれる、人と触れ合える環境づくりも進めていかなければなりません。メディエーター、倫理チームを始めとする多職種による医療介入や緩和ケアの充実などはもちろんの事、かかりつけ医機能

の普及と在宅医療の充実、医療と介護の連携など、地域が一体となった関係作りがさらに求められることでしょう。まさにこれから進められる 2040 年を見据えた地域医療構想や地域包括ケアシステムの在り様が重要となります。将来の不安要素をハイテクで補完し、バランスの良い「ハイテック ハイタッチ」の実現こそ次世代に求められる医療システムであり、将来世代への大きな遺産となるものと考えます。

近年、Chat GPT をはじめとする生成系 AI が想定以上の発展を遂げ急速に活用が進む一方、無秩序な AI の暴走が人間社会に大きな危機をもたらすことが危惧されています。医療に限らずどのような分野においても、我々の生活や社会の中でテクノロジーをどう位置付けるべきか考え、人間らしさを軸とした「ハイテック ハイタッチ」な環境が構築されることを切に期待しています。





新春特集 年頭所感

年頭所感



桜木記念病院

理事長 院長 志田 幸雄

新年明けましておめでとうございます。

令和7年の新春を迎え、関係各位の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本病院協会の理事を平成6年より拝命させて頂いており、協会の皆様には種々御協力御支援いただいております。本年の干支は巳年、蛇の年です。蛇は脱皮を繰り返して成長することから、新たな成長と変革の象徴とされています。私たちも、蛇のように進化し続け、さらなる飛躍を目指していきたいものです。

さて、直近の医療情勢を鑑みますと、医療・介護・福祉の分野においても様々な変革が求められています。特に、三重県の救急医療や災害医療においては、課題が山積しており、早急な対応が必要とされています。これらの課題に対し、協会としても積極的に取り組み、解決策を模索していかなければなりません。

また、三重県の地域医療構想についても、少子超高齢化の中で各構想区域における地域住民のニーズに応じた医療提供体制の構築が求められています。病院協会は地域住民の皆様の声を大切にしながら、各医療機関の機能に応じた、より良い医療の実現に向けて努力していく必要があります。昨年は、私たちにとって大きな悲しみの年でありました。新たな体制のもと、三重県病院協会は「地域医療の充実と発展」を目指し、引き続き各病院がさらに一致団結して進んでいく為、微力ですが、努力していく所存です。医療・介護・福祉との連携体制はもとより三重県医師会や県との連携もさらに一層強化していかなければならないと考えております。

喫緊の課題として年末から新型コロナウイルス感染症・インフルエンザが緊急アラートレベルになっており、各医療機関は、さらに気を引き締め感染症対策に取り組んでいるところかと思われま。ぜひご自愛下さい。最後に本年も、関係各位のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、三重県病院協会の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ新年の御挨拶といたします。



新春特集 年頭所感

新年のご挨拶



三重県立総合医療センター
理事長・院長 新保 秀人

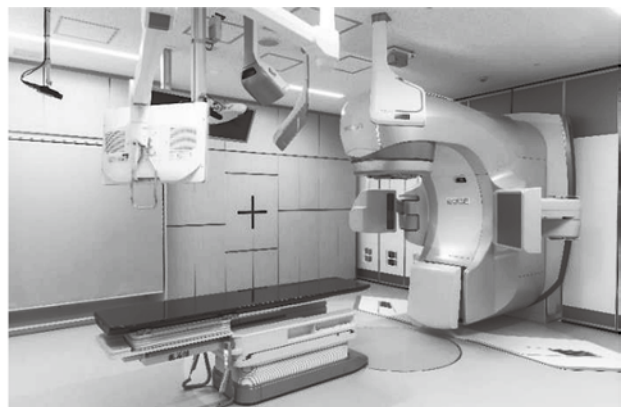
皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年に三重県病院協会も新体制に移行しました。楠田理事長を支えながら三重県の医療がよりよく展開できるように私も微力ながら努めて参りたいと考えております。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平素より当医療センター運営に多大なるご支援を賜りまして感謝申し上げます。紙面をお借りして御礼申し上げる次第です。

さて新年のご挨拶としまして三重県立総合医療センターの近況につきましてご報告させていただきます。

今回は2つの話題についてご紹介します。

一点目は放射線治療機器の話題です。放射線治療器が更新時期を迎えたことにより新たに新棟を建て、そこに新たな機器を導入しました。最新の機器とのことですので期待しています。従来より精度の高い照射が可能となり、早くも症例数が増えつつあり患者さんには朗報と考えています。この治療機器は米国 Varian 社製「The Beam EDGE」といって2024年4月から稼働開始しています。この装置の特徴は幅2.5mmと非常に幅の狭い照射野の構築が可能で、また複数個の脳転移病巣を同時かつ効果的に治療できるソフトウェアも併せて導入しました。ただ照射の計画を立案するのが従来より時間がかかるために担当する放射線技師の方には面倒をおかけしていることになっており心苦しい気がしております。一方で在宅医療を受けておられる方にも情報提供を行い緩和的放射線治療も積極的に行っております。当機器稼働開始からまだそれほど時間がたっておりませんが前年に比べて倍近い方のご紹介を頂き、治療を行っております。このように今後も放射線治療の理解と普及が進むことを願っております。



二点目は手術室の増設です。コロナ禍では感染している患者さんの外科治療には大変な苦勞がありました。その反省から陰圧の部屋を含めて手術室を2室増設しました。2024年2月から稼働しています。陰圧の手術室は通常時は陽圧の手術室として使用可能でして、必要に応じてボタン一つ押せば陰圧の手術室に変更可能という優れものです。

ですから多くの場合は通常に手術に使用しております。2月の稼働以来、ほぼ毎月のように陰圧手術室として使用する手術例を認めており、早くも有用性が確認できた形となり、作っておいてよかったと実感しているところです。



以上が今年ご紹介したい話題です。今後も当医療センターの特色を生かしつつ地域の皆様や医療機関に信頼される病院として、職員が一丸となりまして医療レベルの向上に努めて参りたいと存じますので緒先生方のご支援、ご指導を宜しくお願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

年頭所感



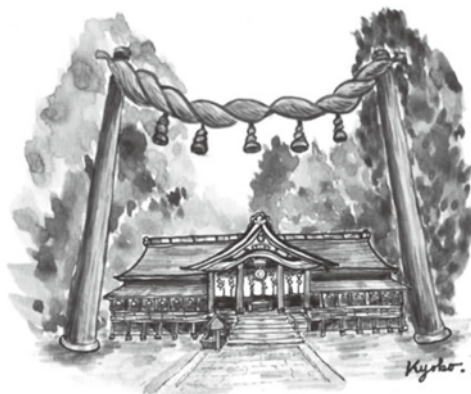
ヨナハ丘の上病院
名誉院長 東口 高志

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2024年の元旦は能登半島地震で始まり、凄まじい一年の幕開けとなりました。当院からもJMATとして少しでもお役に立てるようにとチームを派遣させていただきました。以前より親交の深い友人も、そのご家族も被災しており、未だに十分な復旧が進んでいない現実に心を痛めております。被災地の皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地支援にご尽力いただきました医療スタッフならびに今もなおご支援いただいておりますボランティアの方々に深謝する次第でございます。

さて、私事ではありますが、2021年4月にヨナハ総合病院院長に就任させていただき、同年10月には総合病院とヨナハ産科小児科病院を併合して新たにヨナハ丘の上病院を開院いたしました。その新病院の院長に就任させていただき、地域に根差した病院作りに邁進してまいりましたが、既に3年が経ちました。2024年10月1日には4月よりご着任された須藤啓広先生に院長職を引き継いでいただき、名誉院長職に加えて在宅医療センターのセンター長という新たな役職を賜ることになりました。既に2021年4月から在宅診療部門を設けて実直かつ地味に活動を開始していましたが、既存の訪問看護ステーションや訪問リハビリテーション、デイサービスなどの事業所などの運営を統括的に担当させていただくことになりました。また、今回のセンター立ち上げに際しまして、管理栄養士による在宅栄養管理指導の充実を企画いたしております。

これまででも当院での活動・運営に関しまして本病院協会の先生方には数々のご教示を賜り、いつもいつも深く感謝いたしております。また、新たな領域におきましても何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。





新春特集 年頭所感

年頭所感



四日市市病院事業管理者兼院長

金城 昌明

新年あけましておめでとうございます。快晴で穏やかな新年を迎えることができ、明るく新年を祝いたいと思います。

去年は新年早々、能登の震災、航空機事故があり、波乱のスタートとなりなりましたが、秋には大谷翔平選手、米大リーグ初「50 - 50」の活躍に日本中が沸きました。また去年は、4月の医師の働き方改革が本格スタート、6月の診療報酬の同時改定という大きな変化への対応に追われました。病院経営に目を向けると急激な人件費の増加やここ数年の急激な光熱費、物価の高騰、人件費の増加を背景とした委託費、診療材料費などの高騰で「増収減益」となり、多くの公的病院が赤字という厳しい状況が続いています。

2025年は乙巳（きのと・み）の年であり、巳年は変化に対して前向きな姿勢を示し新しい挑戦をする年、未来に向けて変革を起こす年にしたいと思います。2025年ははたしてどんな年になるのか。米国ではトランプ氏が大統領に再任する。世界では従来 of 秩序が崩れて不安定化している。また民主主義を始め既存の価値観が揺らいでいる。我々はかつてない早い変化の時代に生きているが、不確実なことが多いということは、チャンスも多いと言われる。

また2025年は超高齢社会の入り口、2025年問題、高齢者の増加による医療需要の増加に加えて、少子化の影響による医療従事者の人手不足は地域医療の持続可能性にとって大きなリスクです。

本年も引き続き平時からの災害対策、働き方改革、ヒューマンエラーの連鎖を止めるシステム整備などにも柔軟に対処していかねばなりません。今年も、病院は変化への対応に追われる一年となりそうです。

市立四日市病院は地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、救命救急センターの3つの機能を担いつつ、今後も地域の中核病院として関係機関と連携し、機能分担を図りながら効果的かつ効率的な医療の提供に努めたいと考えています。三重県病院協会の皆様には、本年も今まで以上のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

年頭のご挨拶



総合心療センターひなが
院長 森 厚

謹んで新春のお慶びを申し上げます。病院協会会員の皆様方におかれましては素晴らしい年になりますよう祈念いたします。令和6年に理事に加えていただきました、総合心療センターひながの森厚と申します。当院は昭和31年3月に四日市市日永で開院しました。令和7年1月現在10病棟480床を有する精神科病院です。このうち3病棟137床が精神科救急急性期医療入院料病棟という高規格の病棟です。難治性の統合失調症に対するクロザピン治療や、修正型電気けいれん療法なども行っております。また県精神科救急医療システム事業におきまして北勢医療圏域での精神科救急輪番の基幹病院となっております。

精神障害と言えば「統合失調症」という病名を思い浮かべられる先生が多いのではないのでしょうか？それは実は昭和から平成初期のお話です。令和の時代は高齢社会に伴った認知症、ストレス社会に関連した、うつ病、適応障害、また一般の方にも広く認知されてきた神経発達障害などが幅を利かせ、統合失調症は相対的に目立たなくなっています。このような疾病構造の変化に対応すべく、当院も本年度より児童・思春期の精神医療に力を注いでいきます。令和7年度中に子どものこころ専門医・指導医を確保し、研修プログラム連携施設となり、専門医の研修を始められるようにと準備を整えています。少子化が進んでいるにもかかわらず、児童虐待、不登校、引きこもり、自死など子どもたちは多くの問題にさらされています。しかし相談できる場がまだまだ少ないのが現状です。当院としてもできるだけのことをしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本年も引き続きのご支援ご指導を賜りますようよろしく願いいたします。





『三本の矢』

山中胃腸科病院院長

淵田 則次



明けましておめでとうございます。昨年は能登半島地震で新年が開けました。新型コロナウイルス感染症対策も検証されないまま、新たな感染症に向けて舵取りがなされました。一方、国内国外を問わず政治・経済で大きな動きが続いています。更に、世界各地で殺戮を伴う紛争が勃発或いは継続し解決の糸口すら見えない状況です。今から100年程前に、全世界にスペイン風邪が吹き荒れ、その前後で第一次世界大戦や大恐慌が起こっています。新興感染症と経済危機、世界大戦が足並みを揃えて起こっています。歴史は繰り返すと言われていますが、第三次世界大戦や金融恐慌が危惧だけで終わってくれることを期待します。

医療において、コロナウイルス感染対策に明け暮れた4年間により、我々を取り巻く医療の状況が大きく変化をしました。外来患者に対する感染対策のための人員や空間の確保、更に備品の準備が必要であり、入院においては感染者の早期発見や感染発生時の適切な対応が不可欠となり、診療報酬上算定されない、或いは報われないまま今なお続いています。

経済的に見て、日常生活と同様に食品類の値上げに伴う給食材料費、電気代などの光熱水費、医療消耗品の増加一方で、最低賃金の引き上げにより固定費と言われる給与費の上昇など医業費用が嵩み、医療機関の運営に難題を投げかけています。それぞれの医療機関では知恵を絞ってこの難題を克服すべくご苦労をなさっているとご推察いたします。

また、今後人口が減少し、それに伴い生産年齢人口も減少してきます。働き方改革を唱えても大企業の労働環境や内容とは比較にならないほど厳しいものがあります。それに見合う収入が保障されれば医療従事者の人員も確保できるのですが、現在の状況では明るい希望が見えてきません。有能な人材を確保するための賃金の保証は不可欠であり、その原資の捻出は暗い霧が立ち込めています。

令和6年6月に行われた診療報酬改定は、この様な医療機関の様々な状態を報酬改定に反映しているのでしょうか。これに賛同を示してくれる方はおられるのでしょうか。否、誰一人として賛同されないでしょう。

これらを解決して行くために、医療に関係した人が組織や団体という垣根を超え活発に意見交換を行い、政府や行政に対してより良い明日の医療やその方策を提言し、実現に向けねばなりません。三重県には、三重大学医学部を中心に三重県医師会、三重県病院協会の3つの大きな核となる組織があります。これら三つの組織が一つの目標に向かって協働して、三重県民が安心して過ごせる医療提供体制を護り続けて行かなければなりません。2025年という日本社会の大きな節目の年の始めに、この様なことを考えました。



新春特集 年頭所感

年頭所感 ～巳年です～

鈴鹿中央総合病院院長
北村 哲也



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新年をお迎えなられたこととお慶び申し上げます。

昨年は石川県能登地震に始まりました。半島震災の困難な状況下で DMAT や災害支援ナースとして現地へ赴いた方々、そして留守を守り支えた皆様の滅私奉公に心から感謝申し上げます。また、医師の働き方改革や診療報酬改定、当院においては MRI やクラウド型電子カルテへの更新など多忙を極めた一年でしたが、スタッフの尽力により無事に乗り越えることができました。今年こそ穏やかな年越しを期待していましたがインフルエンザ蔓延による病床逼迫で一層の協力が求められています。

本年は、医療と深い関わりのある「巳年」です。蛇はイブを誘惑して禁じられた知恵の木の実を食べさせたという悪いイメージもありますが、古代アニミズムの神話では人間の祖先とされていますし、白蛇は日本の神話においても、富と繁栄の象徴として神聖で神秘的な存在とされています。また、蛇が死んだ仲間を蘇らせる姿をみたアスクレピオスは、怪物メドゥーサの右側の血でついに蘇生を実現したことで、へびつかい座の医神として天界に迎え入れられたと伝えられています。WHO（世界保健機関）のマークにある「杖にからむ蛇」は「アスクレピオスの杖」が由来で、生命力を象徴しているようで、救急車や第一内科のロゴにも用いられています。

ちなみに、へびつかい座はその一部が黄道帯にかかっているため 13 番目の星座とされ、占星術的にはポジティブ思考で、優しく思いやりがあり、悪口を言わないタイプのようなようです。新しいステージを進むために、私たちもまた前向きに変化を受け入れ、繁栄のため脱皮する必要があるかもしれません。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。





新春特集 年頭所感

年頭所感



鈴鹿回生病院 院長
荒木 朋浩

あけましておめでとうございます。

三重県病院協会の先生方におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から当院に多大なるご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

昨年は能登半島地震から始まり、診療報酬改定、医師の働き方改革、そして年末のインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の増加と私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。私たちはそれらに順応し、安心安全な医療を提供し続けています。

令和7年は楠田会長のお手紙にあった「乙巳（きのとみ）」の年です。この年は学んできたことや努力してきたことが、芽吹き一気に伸びる勢いのある年になります。当院では救急外来の増設、患者支援センター開設、回復期リハビリテーション病棟新設など新規事業を進めております。ちょうど、還暦を迎える私にとっても飛躍の年にしていきたいと考えます。

末筆ではございますが、三重県の医療に貢献できるように更なる努力をしてまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

年頭所感



熊野病院
理事長・院長 野寄 徹

新年あけましておめでとうございます。この度、三重県病院協会理事会の末席に名を連ねることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。当院は東紀州地域で唯一の精神科民間病院として地域に貢献できるよう昭和35年から長期にわたり運営してきました。当院だけの問題ではないと思いますが、近年は病床稼働率の減少が進み、物価高や人件費の増加等の問題が深刻になっております。医療従事者の確保も困難で、今後はサイズダウンも考慮に入れつつ、経営改革等に悩む事が多くなってきております。当院の診療エリアは和歌山県南部から奈良県南部の一部まで含まれており、過疎化が著しく、高齢化率が全国的にみても著しく高い地域です。特に認知症に伴う問題行動の患者様の割合が多く、身体合併症の併存の多い病院でもあります。ところが全国的にみても、民間精神科病院における一般科常勤医師の割合は少なく、0.5人程度といわれており、合併症管理が困難な場合が多く、近隣の一般科総合病院との連携が今後最も重要課題と痛感しております。日頃より当協会の諸先生方には大変お世話になっており、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



年頭所感



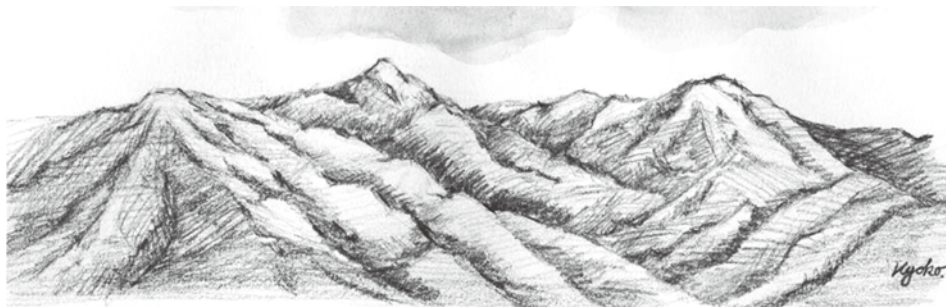
白子ウィメンズホスピタル院長
二井 栄

新年おめでとうございます。病院協会の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私は昨年6月まで県医師会長を務めさせていただきご支援いただいたことに先ず心よりお礼を申し上げます。この経験から三重県と言う地方の医療提供体制をいかに維持していくべきかを勉強し、多くのことを学ばせていただきました。新型コロナウイルス感染症は一息つきましたが、現在の医療界は、あたかも1991年にバブルがはじけた後の日本経済のように沈滞した雰囲気を感じています。2020年に新型コロナウイルス感染症が発生して以来、医療者は団結し、時には自らの命を顧みることなく県民の健康と命を守るために奔走し、大きな成果を上げてきました。しかし、その後の診療報酬改定による締め付けは厳しく、コロナ特需による利益はすでに霧散してしまっているとわざるを得ず、開業医のみならず病院においても赤字決算が続出しかねない状況になってきています。さらに物価高騰等による経費の圧迫、薬の品薄状態などいくつかの医療行政の齟齬により大変な厳しい環境に直面しています。

私の専門としている産科医療に関しては、26年よりお産の現物給付化（保険適応化）が閣議決定されたことより、大きな節目を向かえています。現物給付化すると、産科有床診療所の減収の可能性が非常に高く、これ以上の経営継続は困難であり先が見通せないとの理由で20%くらいの有床診療所が閉院を志向しています。実際、年末に示された日医総研のデータから、なんと現在でも42%もの産科有床診療所が赤字であることがわかりました。分娩施設を減少に追い込み、さらなる少子化に拍車をかけていくような政策しかできないような国では将来の発展は考えられず、国の存亡に危機が迫っていると言っても過言ではないと思っています。

最後に、私は故竹田寛先生が何時も申されていましたように、県内全ての医療機関が連携をとり機能分化をしてそれぞれの部門の役目を果たしていくことが大切と考えています。今後とも精進して参りますので、本年も宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。





年頭所感



三重県立こころの医療センター院長
森川 将行

新しい年を迎え、本年もよろしくお願ひいたします。昨年は、元旦の能登半島地震を受けて、直ちに災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣の準備に入り、私自身は1月11日-17日に三重県DPAT第2班として珠洲市と輪島市で支援に当たりました。報道されているように、水、電気、トイレ、道路等のインフラの被害が甚大でした。そして、復興途中の令和6年9月には能登半島豪雨が起り二重の被害が生じ、避難先の仮設住宅が床上浸水している光景には私自身心が折れそうになりました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、同年8月8日には、初の南海トラフ地震臨時情報が発表され、改めて南海トラフ地震が発災した場合の、自院における対応や準備について点検する機会となり、平時と非日常の切り替えの必要性について改めて考えさせられました。

新たな取り組みとしては、主に中学生から20代を対象としたAYA世代病棟の運用を令和6年2月から開始しました。AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったものです。この世代では、小児期に受けた虐待などの逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experience：ACE）による心身への影響や自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害など発達特性を有するための生きづらさが生じやすくなります。特に多職種（看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理師等）で集中的に対応する必要があり、この病棟では可能となっています。そして、思春期においては特に早期介入が重要となります。総合病院の皆様のご理解とご協力を得て、市販の風邪薬などを過量に服用するオーバードーズ（市販薬の過剰摂取：OD）のため、総合病院に運ばれた後の連携を少しずつ広げています。これにより精神科医療につながるきっかけとなり、早期から必要な対応を実施することが可能となります。

今後も、皆様とスムーズな病病・病診連携が取れますよう努力してまいりますので、何卒よろしくお願ひいたします。





新春特集 年頭所感

年頭のご挨拶～2024年を振り返って～

三重中央医療センター
院長 下村 誠



新年、明けましておめでとうございます。

2024年は能登半島地震から幕を開け、400人以上の市民が犠牲となりました。9月には追い打ちをかけるように集中豪雨による風水害が再び発生し、被災された能登地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。当院からも災害医療派遣チーム（DMAT）を派遣しましたが、困難な状況下で力を尽くして頂いたすべての医療職の皆様に深く敬意を表します。また8月の台風10号では当院でも内水氾濫が起こり、外来や職員駐車場の冠水、地階の床上浸水など当院も大きな被害を受けました。昨年は震災以外にも多くの災害対応を余儀なくされた1年でした。

一方で、昨年は施設の改装により医療提供体制を強化しました。4月には新救急外来棟が完成し、広い初療室と棟内のCT装置を活用しより効率的な診療が可能となりました。6月には入院支援室を、11月には外来化学療法センターを開設し、患者様により快適に機能的に治療を受けていただく体制を整備しました。

また、医療の質向上に向けた努力が実を結び、二つの重要な認定を取得しました。一つ目は卒後臨床研修評価機構（JCEP）による認定です。来年度も10名の研修医が入職予定ですが、この認定を受け今後さらに多くの医学生が当院での初期研修を希望してくれることを期待しています。二つ目は、三重県より「女性が働きやすい医療機関」に認定されたことです。少子化に伴い医療職の確保が難しくなる中、若い医療職に選ばれる病院となるべく、引き続き取り組んで参ります。

2025年は巳年です。「学びや努力が実を結ぶ年」とも言われます。医療を取り巻く環境が年々厳しさを増す中ではありますが、地域の皆様にとって本年が実り多い1年となるよう願っております。本年もご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

新年のご挨拶



済生会松阪総合病院
院長 清水 敦哉

皆さま、明けましておめでとうございます。昨年1年間のご厚情とご支援に御礼申し上げますとともに、新年のご挨拶をさせていただきます。

昨年と違い今年は穏やかな新年を迎えることができ本当によかったです。能登地方の皆様には本当にたいへんな1年となり1日も早い復興をお祈りします。

今年はいよいよ地域医療構想でも目標にできました「2025年」となりました。その次の節目は2040年で団塊ジュニアが65歳になる年になります。今後、人口減少、人材不足が深刻になり人件費、材料費や光熱費の増大で厳しい経営状況にさらに追い打ちをかけることになると思います。

当院は新病院建築にむけて10年近く計画を立ててきましたが、残念ながら昨今の建築費高騰により昨年入札不調となり現在、早期着工を目指して再度計画を進めております。ここ最近の状況をみまして多くの医療機関が新病院建築に難航されています。診療報酬の伸び以上に経費が増大するような状況では病院事業を公的な資金援助なしで維持していくことが極めて困難な時代であると思います。コロナ禍を経て、日本の医療が世界に比べていかに素晴らしい成績を残したか、次々にデータが出ています。限られた医療資源のもとで日本の医療は最大限の活動をしています。そのインフラを次世代に持続的に継続していくために現在の医療機関の窮状は重大な社会問題だと思えます。残念ながらその状況はあまり世間に知られていないと思いますが、政治の場でぜひ、日本の優れた医療を守るための議論をしていただきたいと思えます。そのためにも病院協会をはじめ各医療団体が窮状を訴える必要があると思えます。

一方で我々も医療DXやITの活用により効率よく医療を展開することを考えなければならぬと思います。生産性向上が最も難しい医療分野においてその改革は極めて困難ですが、医療業界の生き残りのため働き方改革により若い人たちに魅力ある職場環境を提供しなければなりません。今年は「乙巳（きのとみ）」で努力を重ね物事を安定させる年、たいへんな年ですが皆さんとともに脱皮できるよう頑張りたいと思えます。何卒、本年もよろしくお願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

新年のご挨拶



松阪中央総合病院
院長 田端 正己

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、爽やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、当院は以前から救急医療に力を入れてまいりましたが、昨年10月、県から救命救急センター(第三次救急医療機関)の認可をいただくことができました。これまで三重県では市立四日市病院、県立総合医療センター、三重大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院の4病院が認可されていますが、この広い松阪・東紀州地域には救命救急センターはありませんでした。今回の認可を機に、さらに救急医療体制を強化し、この地域の重症疾患の救命に務めてまいります。

また、2022年8月に運用を開始したドクターカーですが、医療スタッフは現場に急行するものの、患者搬送機能のないラピッド・カー(乗用車型)でした。そこで昨年12月、新たに搬送機能付きのドクターカーを導入し、2台体制といたしました。さらに出動範囲も当初の松阪地区広域消防組合管内から昨年10月には紀勢地区広域消防組合管内まで拡大しました。本年度中には紀北消防組合とも協定を結び、より広域で病院前救急に取り組むたいと考えています。

さて、昨年は元旦に能登半島でマグニチュード7.6の大地震が発生し、改めて地震の恐ろしさを痛感させられた年明けになりました。そして、8月8日には日向灘で発生した地震を受けて、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が初めて発表されました。幸い地震の発生なく経過しましたが、当県は常に南海トラフ地震の危険にさらされていることを再認識させられた出来事でした。もし、南海トラフ地震が発生した場合、当院は立地上、津波による浸水リスクがなく、また大きな被害が想定される志摩半島地域や東紀州から高速道路のアクセスが良いので、災害医療を担う拠点となります。そのため万が一の際にはその重責を果たすことが出来るよう、本年は災害訓練や防災研修に、より一層積極的に取り組んでまいります。

理事の先生方をはじめ、会員の皆様にはご支援賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。



新春特集 年頭所感

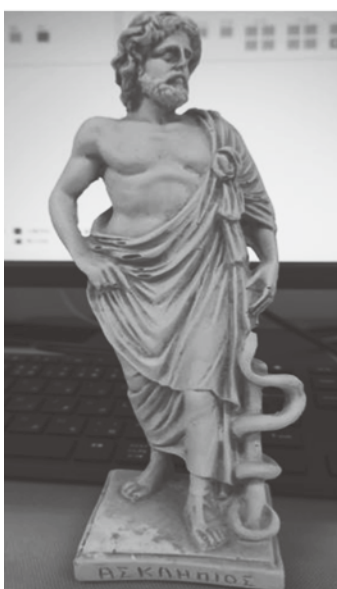
年頭挨拶



伊勢ひかり病院院長
堂本 洋一

明けましておめでとうございます。昨年は能登半島地震に始まり、地震や豪雨などの自然災害が頻発し、多くの地域で甚大な被害が発生しました。本年は、十干と十二支の60年目で、乙巳(きのとみ)の年です。新たな成長と飛躍「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年です。「巳」(へび)は、ギリシャ神話に登場するアスクレピオスの蛇(クシヘビ)の巻きついた杖を連想します。死人をも生き返らせる程の医療の神で、現在でも医療の象徴で、医療・医術の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークです。医学の進歩やITの進歩した現在も、治癒の精神と倫理を保つことが重要視され、新たな形で活用される可能性があります。ギリシャで購入した医神アスクレピオス像の置物は、院長室に飾ってあり、時に眺めて自己啓発しています。

伊勢ひかり病院は移転し3年目で、2040年問題を控え、病院の基礎充実をしなければなりません。世代交代と温故知新が課題となります。世代交代の際の指導は、適切に行わないと時としてパワーハラスメントとみなされる可能性もあり、十分な検討が必要です。現在、災害対策副院長を担当しております。昨年11月まで日本では、83回の震度4以上の地震があり、震度5以上(病院に集合)は12回あったようです。昨年8月8日には、気象庁が初めて南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」を発令。アマチュア無線による通信は、災害発災直後・超急性期には、まさかの時のツールとして必要不可欠なものと思います。各病院には、ICOM-50セットを推奨します。御協力お願い申し上げます。



各病院の設置 アマチュア無線機 推奨セット

ICOM ID-50

当院伊勢より、津までの交信確認
ハンディー・ロッドアンテナ91cm使用
急速充電器・乾電池ケース・Bluetooth
ヘッドセット

アンテナクリップ
ケーブル付

三脚・板等に固定

ダイヤモンド MCR-II ※BNCコネクタ
ニバーサルクリップベース(同梱物
付) MCR-2

約10万円

工事必要なし



年頭所感



志摩市民病院 江角 悠太

あけましておめでとうございます。2024年度は大変世話になりました。特に、三重県に縁と恩返しを持ち続けている医師、医学生の団体「のろ志」にご支援していただき本当にありがとうございました。津市での総会2回、熊野市での地方会1回行い、計150名ほどの先生方に参加していただき、三重の医療課題を共有議論する機会、そして、何よりも病院長先生方が若手中堅医師や医学生と交流していただけたことにより、彼ら彼女らのキャリアプランの再構築につながっております。実際にのろ志をきっかけに、県外医師が県内医師との交流が深まり、県内病院に就職する事例も出始めました。改めて、病院長先生方にご指南、アドバイスをいただけることの重要性を再認識するとともに、若手中堅医師が三重県内で働くことの魅力を感じ、「帰ってきたい」と思える場所となるために、このような機会の積み重ねが重要であると強く感じました。

三重県の医療をより良くしたい、という目標のもとに、三重県内の医師が専門科や病院、地域の枠、そして世代の枠を超えて交流し、お互いの顔やキャリア、人間性が見える関係性を育むことが、三重に帰りたい、三重で働きたいという医師が増えることにつながる、そのために精進したいと思います。

2025年2月15日には第3回のろ志総会を大学病院12階三医会ホールで行います。一人でも多くの先生方にご参加いただきまして、県内外の学生、若手中堅と交流を深め、盛り上げていただけますと幸いです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。





新春特集 年頭所感

2025 年を迎えて



紀南病院院長
加藤 弘幸

新年あけましておめでとうございます。紀南病院の院長を拝命し、5 回目のお正月を迎えることとなりました。

紀南病院を取り巻く医療情勢としましては、昨年4月の診療報酬改定や、医師の働き方改革による労働時間の上限規制の開始等があり、柔軟に対応しているところであります。また、2025年は、地域医療構想がいよいよ具現化される中、昨年三重県に提出した、公立病院経営強化プランに沿って随時軌道修正も行いながら経営状況の改善に努めていく所存です。また、その先には、団塊の世代のジュニアが65歳の高齢者に達する2040年問題があり、今後はこれにも対応すべく医療改革が求められております。

当院は、地域の中核病院として住民の皆様に住み慣れた場所で安心して生活ができるための医療体制を提供することが使命と考え、引き続き急性期医療はもとよりそれに続く回復期医療を充実させつつ在宅支援を行ってまいります。在宅支援に関しては、地域包括ケアシステムを推進し医療・介護・福祉などの多職種で連携してその関係を構築していく事が重要と考えております。

今年は巳年ですが、蛇は脱皮をすることにより「復活と再生」を連想させ、縁起のいい動物と考えられています。また、その神秘性から「神の使い」と崇められてきました。紀南病院といたしましても、今年は今更なる飛躍の年として進化できるよう、努力していきたいと考えております。

この様に、今年も紀南病院は地域に求められる医療体制を提供し、この地区の中核病院としての使命を果たすべく、急性期から回復期への医療はもとより救急医療や災害時の医療にも尽力していく所存です。

三重県病院協会様からも引き続きご支援をいただきつつ、今後ともこの紀南病院をよろしくお願い申し上げます。





新春特集 年頭所感

年頭所感



吉田クリニック院長
吉田 光宏

新年あけましておめでとうございます。

昨年末、当院ではコロナ禍で休止していましたが忘年会を5年ぶりに開催いたしました。久しぶりの会で大いに盛り上がり楽しい時間をすごすことができました。しかしその後気のゆるみがあったわけではないと思いますが、コロナによる院内クラスターが発生してしまいました。年末年始の期間、休日体制のスタッフ人数でクラスターが拡大しないかと肝を冷やしました。そんな中、1月2日は津市の救急当番でしたが、発熱外来には想定以上の方が受診されあわやインフルエンザ薬が不足してしまう一歩手前でした。門前薬局に問い合わせるとこの卸も1月6日の休み明けまで連絡も困難とのことで、社会インフラとしての認識が不足しているのではないかと正月早々、少々憤慨を感じてしまいました。

想定外といえば、能登半島地震の被災者の方々です。新年初日からの地震発生はよもや予想もされなかったのではないのでしょうか。また復興のスピードも大幅に遅れ、さらに豪雨による水害も重なり、まさに想定外に悲惨で不条理な1年を過ごされたことと思います。南海トラフ地震の被害をもろに受ける可能性が高い我々にとって決して他人事でないと感じています。

海外に目を向けてみると“またトラ”は想定内としても、韓国での尹大統領による戒厳令事件や、シリアのアサド政権のあっけない崩壊など予想もつかない（ある意味予想されたことかもしれませんが）出来事の連続であることに気づかされます。想定外な出来事は案外日常茶飯事なのかもしれません。

想定外を想定する努力と想定外のことが発生した場合のレジリエンス力がまだまだ不足していると憤慨した自分を反省しつつ、この新しい一年が無事に過ごせることを願ってやみません。本年もどうかよろしく申し上げます。



新春特集 年頭所感

令和7（2025）年の年頭所感

三重県病院協会・監事

ヨナハ丘の上病院・理事長、松阪市民病院・顧問

伊佐地秀司



新年あけましておめでとうございます。昨年のお正月は、能登半島地震や羽田空港事故など厳しい状況の中でのスタートとなりましたが、今年は穏やかな幕開けとなっているようで、まずは安堵しております。本年は、巳年にあたりますが、巳年は「再生」や「成長」を象徴し、厳しい環境の中でも着実に力を蓄え、未来へ向かう年とされています。この精神を胸に、私自身も年男として新たな気持ちで邁進する所存です。

監事として、私は協会の公正かつ透明性の高い運営を支える役割を担うことに責任を感じております。会員病院の皆様と連携しながら、協会活動の一層の発展に寄与できるよう努めてまいります。また、医療現場が抱える課題の解決に向けた提案や支援を行うことで、協会が社会の福祉増進という創設以来の理念を具現化する一助となるよう全力を尽くします。

結びに、三重県病院協会が本年も力強く活動を展開し、地域医療の未来を切り開いていきますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。どうぞ本年もよろしくお願ひ申し上げます。



305号 特集「竹田 寛先生を偲んで」より

故・竹田 寛 追悼特集への御礼

竹田 恭子 (故・竹田 寛 妻)

故・竹田寛追悼の特集を企画していただき誠にありがとうございました。追悼文をお寄せいただきました皆様方からは温かいお言葉をたくさん賜り、心より感謝申し上げます。

竹田寛の病状経過等について申し上げます。

「画像診断の専門家がどうして自分自身の画像を読影していなかったのか？」

「胆嚢に癌ができ転移するまで、どうして気付かなかったのか？」

「健康診断がいかに大切であるかを常々詳しく説明していたのに、自分自身の健康管理はどうしていたのか？」と様々な方面の方々からたくさんの質問を受けております。

その質問につきまして、この紙面をお借りして妻として知っている限りのことを、お伝えさせていただきます。(説明させていただきます)

竹田寛自身の健康診断に関しましては20年以上前から毎年定期的に津市内の病院と三重大学医学部附属病院におきまして、血液検査、胃カメラ、大腸ファイバー、腹部CT、MRI、脳ドック等の検診を欠かしたことはありませんでした。

今回の胆嚢癌の発症と、その後の経過については竹田寛自身が記録していた日誌から抜粋して説明させていただきます。

2023年8月にしこりがあると気づき自身で経過観察をしていた。

少し大きくなっているようなので、2023年10月30日に桑名市総合医療センターで腹部エコー、翌日11月1日に胆嚢の造影CT検査をして、胆嚢線筋腫症の診断を受ける。癌化はしていない。

2023年11月8日、津市内の病院での定期検診で血液検査、胃カメラ、大腸ファイバー検査等を行い、胃と大腸は異常なし。

胆嚢線筋腫症については、信頼している外科医師にまかせる。自分では摘出手術を願い出たが、良性だからと手術はされなかった。

2024年1月、自身の経過観察では、しこりが以前より少し大きくなったので、桑名市総合医療センターで手術前の検査を行い、その資料を津市内の同病院に持参し、5日間の入院も予定に入れ、再度同外科医師に手術・胆嚢摘出を依頼したが、今回も手術をされなくそのままにしていた。

2024年7月に入り腹部鈍痛が続く。

2024年7月5日、津市内の同病院でCT・腹部エコー・MRI検査をすると、その結果、胆嚢癌の腹膜播種と診断される。死の宣告を受ける。

急いで仕事を片付けなければ・・・

ここで竹田寛の日記は全て終了しております。

以上の記載から解かるように、竹田寛は決して自身の健康管理をおろそかにしていた訳ではなく、何度も検査を行い、胆嚢摘出手術を2回申し出ておりましたが、手術は行われずに、取り返しのつかない結果になってしまいました。

自身の死を覚悟してからは、存命中に手掛けている仕事を如何にかたづけるのか、今後どのように治療を行っていくのかが喫緊の課題である。そして今後の闘病記録を正確に残すことが自分の使命であると述べておりました。

現在抱えている仕事も「あと2年。2年あれば成し遂げることが出来る」と無念の表情でした。その後も深刻な表情は決して緩むことはなく、自身の過去を振り返る時間や余裕は全くなく、お酒も一切飲みませんでした。

冒頭のご質問にお答えさせていただくために、竹田寛の日記から抜粋して経過を記載いたしました。どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

竹田寛は一瞬にして死の宣告を受けて、絶望に直面した状態のなかでも諦めずに、医師としての使命を最後まで果たす決意をしておりました。その強い決意を傍で聴いていた私は「自分の命が最悪の事態に陥っているのに、めげずに屈することのない、凄い人である」と改めて感銘を受け、最後まで仕事が成就できるように、あらゆる面で手助けしようと決意を新たにしました。そして悲嘆にくれている時間は無く、三重大学医学部附属病院に入院中にも病室にパソコンを持ち込み、必死に課題を成し遂げようと試みておりましたが、願いが叶うことはありませんでした。

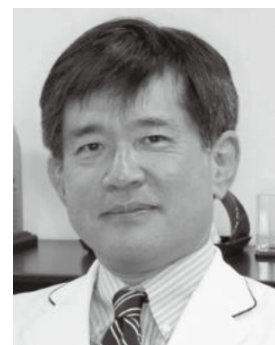
故・竹田寛は生存中、三重県病院協会会報誌に記載していますように、医師の皆様、看護師の皆様、技術職員の皆様、事務職員の皆様から、いつも絶大なご支援を賜り仕事をしてまいりました。その結果、追悼集にお寄せいただいた温かいお言葉のように、志半ばではありますが、当初の目標でありましたより良い医療の事業を達成することができたのだと思います。

最後に、故・竹田寛に携わっていただきました全ての皆様方に、この紙面をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

2024（令和6）年 12月20日

わが町の病院

桑名市総合医療センター
院長 山田 典一



桑名市総合医療センター

病床数：一般病床 400 床

診療科 33 科：内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内分泌内科、膠原病リウマチ内科、血液内科、脳神経内科、肝臓内科、腎臓内科、呼吸器内科、総合診療科、小児科、産婦人科、精神科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、麻酔科

地域災害拠点病院（令和 2 年 3 月認定）

女性が働きやすい医療機関（令和 2 年 3 月認定）

地域医療支援病院（令和 2 年 9 月承認）

がん診療連携拠点病院（令和 4 年 4 月指定）

地域周産期母子医療センター（令和 6 年 5 月認定）

桑名市総合医療センター（平成 30 年）



各病院開院当時の写真

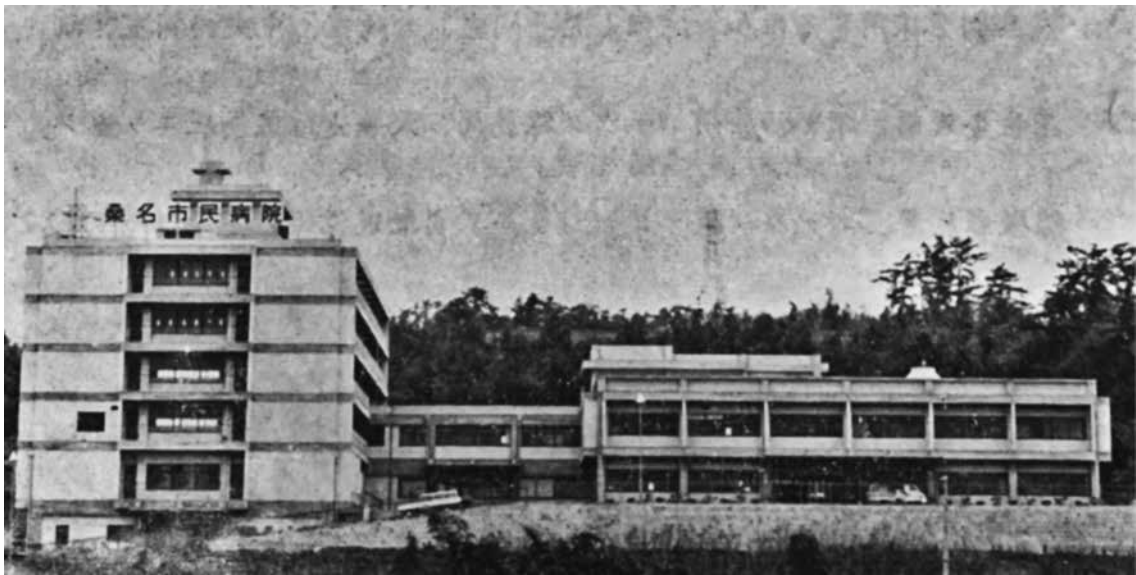
山本病院（昭和 35 年頃）



平田外科医院（昭和 26 年頃）



桑名市民病院（昭和 41 年頃）



桑名市総合医療センターの歴史

	山本総合病院	桑名市民病院	平田循環器病院
昭和 20 年 (1945 年)	戦災により桑名市内の医療施設が焼失し、山本病院開設		
昭和 26 年 (1951 年)			平田外科医院 (8 床) と して開院
昭和 36 年 (1961 年)			平田外科病院 (25 床) として認可
昭和 38 年 (1963 年)	総合病院 (107 床) とし て認可		
昭和 41 年 (1966 年)	病棟増築繰り返し徐々に 349 床まで増床	一般 125 床、結核 25 床 で開院	
昭和 45 年 (1970 年)		総合病院承認	
昭和 46 年 (1971 年)		一般 174 床、結核 60 床 に増床	
昭和 52 年 (1977 年)		一般 204 床、結核 30 床 に変更	
昭和 55 年 (1980 年)		人工透析開始	
平成 9 年 (1997 年)			平田循環器病院 (79 床) に改称
平成 21 年 (2009 年)			統合し地方独立行政法人桑名市民病院 (313 床) となる それぞれ桑名市民病院本院と分院と名称変更
平成 24 年 (2012 年)		統合し地方独立行政法人桑名市総合医療センター (662 床) となる 山本総合病院は桑名東医療センター、市民病院本院は桑名西医療センター、 分院は桑名南医療センターに名称変更	
平成 30 年 (2018 年)	新病院開院、桑名市総合医療センター (400 床) となる		

開院式 (2018年4月1日)



内覧会 (2018年4月7日～8日)



全職員対象 BLS 研修



縫合研修



院内保育園 365日稼働しており職員にたいへん好評です。常に満員の状態が続いています。

～ハロウィン～



～運動会～ かけっこ



病院から歩いて行ける範囲内にさまざまな桑名観光スポットがありますので、是非、訪れていただければと思います。



九華公園



六華苑



七里の渡し



わが町の病院

紀南病院

院長 加藤 弘幸



紀南病院組合立紀南病院の概要

病床数 244 床（一般 140 床 地域包括ケア 60 床 療養 40 床 感染症病床 4 床）

診療科 16 科（内科、消化器内科、脳神経内科、外科、消化器外科、整形外科、小児科、脳神経外科、眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科）

設立時の紀南病院（当時の名称は南牟婁郡町村会立南牟婁民生病院）



昭和 23 年 9 月 10 日、21 町村（北輪内村、南輪内村、荒坂村、新鹿村、泊村、木本町、有井村、神志山村、市木村、阿田和町、鶴殿村、井田村、御船村、相野谷村、尾呂志村、上川村、入鹿村、西山村、神川村、五郷村、飛鳥村）により、南牟婁郡町村会立南牟婁民生病院設立
病床数：25 床 診療科目：内科、外科、小児科

現在の紀南病院

屋上でドクターヘリが離着陸します



医師宿舎

新しい宿舎が建ちました



防災訓練

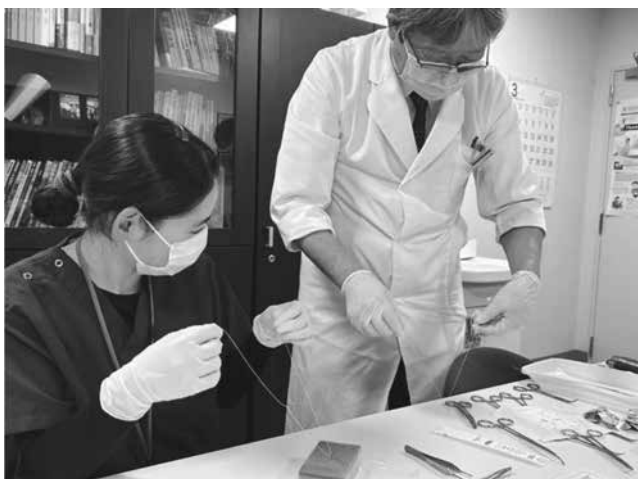
病院内で火災発生を想定



紀南メディカルラリー

病院職員もスタッフとして参加





高校生医療体験
未来の医師に縫合研修

七里御浜ふれあいビーチ
南国を感じることができます



早朝の太公望
浜から鯛、太刀魚、カマス、ハマチ等々
が釣れます

阿田和駅

築 85 年、南牟婁民生病院設立時から多くの患者さんが通った阿田和駅舎も老朽化・シロアリ被害に伴い令和 8 年 1 月以降に建て替え予定





「うちの病院自慢」

四日市消化器病センター 地域連携室

当法人は、病院、診療所、老健の3施設を運営しています。私たちの職場は、スタッフのチームワークが自慢です。お互いに何でも言い合える風通しの良い環境が、患者さんへの質の高い医療やケアに繋がっています。最近の活動紹介ですが、3施設合同でお食事会や旅行を企画しており、職員同士の交流も盛んです。12月は、カニを楽しむ会や滋賀への旅行を行い、リフレッシュしながら親睦を深めました。患者様にも、働く私たちにも優しいこの環境を、これからも大切にしていきたいと思えます。



三重はふるさと 空中散歩

松阪市民病院名誉院長 小倉 嘉文



大 湊 海 岸



大 湊 港



北神山花街道



北神山街道の河川敷に咲く彼岸花



三重県病院協会だより

令和6年度 第2回 事業報告（研修事業）

事業名	開催年月日	開催方法	講演テーマ	講師	参加人数
人権・接遇研修会	R7. 2. 20	オンライン (zoom)	『人権三法について』	三重県医療保健部 田中 直子 様	
			『カウンセリングの現場から学ぶ』～自分を幸せにする生き方・考え方のヒントPart 2～	日本産業カウンセラー協会 中川 真理子 様	
			(テーマ検討中)	株式会社ニチイ学館 疋田 早苗 様	

今年度2回目の人権研修のご案内です。

開催予定日 令和7年2月20日(木)

受賞おめでとうございます



令和6年度三重県福祉関係功労表彰(精神保健福祉事業功労)

松阪厚生病院 医局長

木村 章弘 様



令和6年度看護関係功労者知事表彰

総合心療センターひなが 准看護師

廣田 美栄子 様





報告

三重県精神科病院会だより

12月20日	12月例会 津市新町 プラザ洞津	15名	1, 三重県からの報告 「みえ性暴力被害者支援センター よりこ」 三重県環境生活部 くらし・交通安全課 課長 行村 様 2, 第15回三重精神科医療フォーラムについて（報告） 3, 第16回三重精神科医療フォーラムについて（進捗状況報告） 4, 各種委員会、審査会報告 社保・国保審議会報告 5, 情報交換 児童思春期のメンタルヘルス障害と 学校カウンセラーとの連携について 4, その他 5, 懇親会(11名の先生方、事務局)
--------	-------------------------	-----	--



これからの医業経営へ、「信頼」で結びたい。



医療・保健・介護・福祉施設が抱えるあらゆる課題を、
資格認定されたコンサルタントが解決します。

認定登録 医業経営コンサルタントは、医業経営に携わる方々が直面する課題に
的確・迅速に対応するため、所定の継続研修を履修し、常に資質の向上を図っています。



JAHMC

Japan Association of Healthcare Management Consultants
公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会

三重県支部

支部 〒511-0834 三重県桑名市大福406-1 (税理士法人中央総研内) TEL:0594-23-2448 FAX:0594-23-3303

本部 〒102-0075 東京都千代田区三番町9-15 ホスビタルプラザ5階 TEL 03-5275-6996 FAX 03-5275-6991 <http://www.jahmc.or.jp>



三重県医薬品卸業協会



快適が好きです。


親しみやすさを感じさせるユニフォームは癒しを与えてくれる



明るい励ましの声が響いてくるような、温かな絆のシンボルとも言えるユニフォーム。機能的な先進素材と、軽快で動きやすいデザインが理想の協働環境をサポートします。



KURA-UNI CORPORATION

クラユニ 

ユニフォームで人とコミュニケーション

株式会社 **クラユニ コーポレーション**

(旧社名 株式会社 倉田白衣)

★おかげさまで、地域に愛されて110年あまり。
ユニフォームのことなら何でも
ご相談ください！

あらゆるニーズに、確かな「ユニフォーム力」でお応えします。

- 津 本 社 津市中央 12-1 TEL059-226-8911 FAX059-225-8911
- 四日市支店 四日市市諏訪町 12-1 TEL059-351-8911 FAX059-351-8910
- 伊 勢 支店 伊勢市宮町 1-9-20 TEL0596-24-8911 FAX0596-24-8583
- 名古屋支店 名古屋市東区飯田町 47 TEL052-931-8910 FAX052-931-8919
- ホームページ <https://www.kurauni.co.jp> ●FreeDial 0120-11-8911

NEWS! 各スポーツブランドのメディカルユニフォームに加え、高級ドクターコート等も取扱っています。

唯一無二の住宅建築



オカモトハウジングは、世界に一つだけしかない、住まい手の邸宅を造る為に存在しています。私達の目的は、ただ一つ「お客様への住宅を自分たちも住んでみたいと思う、素敵な建物にすること」それ以外ありません。その為には、プロとして建築の知識と技術を日々高め、そしてそれらを借しむ事無くお客様の住宅建築に注ぎ込んで行きます。

OKAMOTO HOUSING

有限会社 オカモトハウジング

〒510-8034 三重県四日市市大矢知町1638-1

TEL 059-364-2033 FAX 059-366-2778

<https://www.okamotohousing.com>

名古屋営業所

愛知県名古屋市長区よもぎ台2-808

コーポ名峰101号室



委託業者の 言いなりに**STOP!**

厨房運営
30年

ナリコマのクックチルで
「厨房経費の削減」を実現

味・人材・コスト課題のすべてをサポートいたします



こんな お悩み ありませんか？



人材不足に困っている

- ✓ 早番・遅番の人材が足りない
- ✓ 求人を募集しても、応募が来ない
- ✓ 採用してもすぐに辞めてしまう



コストが上昇し続けていて
困っている

- ✓ 人件費（最低賃金）の上昇
- ✓ 水道光熱費・食材費の高騰
- ✓ 給食委託費の値上げを迫られている



品質が安定しなくて
困っている

- ✓ 調理師によって味が変わってしまう
- ✓ 介護食のとろみや粘度が安定しない
- ✓ 温かい料理が提供できない

その悩み

ナリコマのニュークックチルにおまかせください！



ナリコマ エンタープライズ

(株)ナリコマエンタープライズ 名古屋営業所
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-6-6
名駅ユタカビル9階A号室

TEL 052-462-8122 FAX 052-462-8123



三重県病院協会会報

令和7年1月 NO.306

発行 一般社団法人 三重県病院協会
〒514-0009 津市羽所町 514 番地 サンヒルズ内
Tel.059-223-2744 E-mail:sshenyi896@gmail.com

印刷 伊藤印刷株式会社